



特集

# 道元禅師ものがたり

4

## ——まことの禅を求めて中国・宋へ



建仁寺で明全和尚みんぜんわうについて臨濟禅を学ぶ道元禅師。しかし、当時の建仁寺は、比叡山からの迫害を避けるため、禅だけでなく、天台や真言の教えも学ばなければなりません。純粹な禅を学びたい、宋へ渡りたいという道元禅師の思いはますます募っていきました。

### 降りかかる難問

実は、明全和尚も宋行きを願っていました。二人は力をあわせて、朝廷と幕府へ宋に渡る許可を願い出ました。ところが、いよいよ出発というとき

になって、難問が持ち上がりました。明全和尚の師であり、育ての親でもある明融阿闍梨みんじゅうあせりが危篤におちいったのです。明融阿闍梨は、苦しい息の下から「明全、すまないが、宋へ行くのは、私を看取ってからにしてくれないか」と訴えました。

この機会を逃すと宋に渡れるかどうかわかりません。明全和尚は悩み、弟子たちを集めて相談します。弟子たちはみんな延期を勧めました。末席にいた道元禅師は「仏法の悟りが今のままではよいとお考えなら、延期されてもよ

No. 28  
2009 Winter

含松山 臨南寺  
がんしょうざん りんなんじ

いでしょう」と語りかけました。

### 明全和尚の決意

弟子たちの言葉を聞いた明全和尚は、「私が宋行きを延ばしても、師の寿命を延ばすことはできない。宋へ渡り、志を遂げて、ひとりでも多くの人々の心を救うことができたなら、師の深い恩に報いることになる。それこそ仏のみ心にかなうことではないか」  
後、髪をひかれる思いを断ち切るように明全和尚は、道元禅師のほか弟子二名とともに宋に渡ることを決心したのです。

貞応二年（一一二二—一一二三）二月、京都を出発した一行は瀬戸内海を九州まで下り、三月には博多の港から宋への交易船に乗り込みました。この船には、瀬戸焼の祖といわれる加藤四郎左衛門も乗っていました。  
当時、中国へ行くには二つの航路が

ありました。朝鮮半島を北上して渤海を横切る北路と、五島列島から奄美大島の沖を南下して東シナ海を横断する南路です。

### 嵐の東シナ海へ

一行の乗った船は南路へ向かいました。南路のほうがうまく行けば早く着きますが、それだけ難破する危険性も高い。遣隋使、遣唐使の多くは南路を取りました。伝教大師、弘法大師、そして榮西禅師も南路でした。

最初は順風満帆でしたが、まもなく嵐の海に突入していきます。まるで巨大な波のまっただに投げ出された一枚の木の葉。空高く投げつけられたと思ったら、次の瞬間海の底へ引き込まれます。風はうなりを上げて襲いかかり、船体は悲鳴を上げました。  
恐怖におののく船客たちの中で、道元禅師は坐禅をしてしのぎました。そんな嵐もやがて収まります。船は命からがら、めざす明州慶元府に着きました。今の寧波です。四月の初めのことでした。  
憧れの宋に着いた道元禅師ですが、上陸の許可がありません。その話は次号のお楽しみにいたしましょう。

# 恒例の弁財天祈禱会

一月十五日(金)午前十時から



臨南寺では、一月十五日(金)午前十時から、本堂にて弁財天祈禱会を営みます。

『大般若波羅蜜多經』六百卷のうち五七八「般若理趣分」を転読し、檀信徒の皆様が無病息災、家門隆盛、家内安全を祈願し、お札をいただく法要を行います。

『大般若波羅蜜多經』は、大乘經典の初期に成立した經典で、古来より大きな靈力を持つと信じられてきました。特に「般若理趣分」は、転読するだけで六百卷すべてを讀誦したと同じ功德が得られるといわれています。

弁財天様は七福神の一人。言語、知識、音楽をつかさどり、知恵と財福を授けていただける神様です。当山の弁財天様はかつて弁天堂に祀られていた由緒ある神様で、合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈



験あらたかと伝えられています。

温かい甘酒の振る舞いもあります。過ぎ行く年に感謝をささげるとともに、新しい年の幸せを願って、ご家族、お友達、お誘い合わせの上お参りください。わが国がこれから先も安らかで穏やかでありますよう、そして世界から戦争や飢えがなくなりますますよう、皆様とともに祈願したいものです。

## 寺景 百景



### 龍のひげ

お墓の継承者がいなくても永代供養してもらえる「がつしょう園マトリ」会員になる人も年々増えて、いまや一〇〇〇件を超えました。

そのマトリのたたずまいが少し変わりました。マトリは噴水に囲まれて

いました。しかし、落ち葉が詰まったりお子さんが落ちたりするため、噴水をやめて植物を植えることにしました。

その植物が「龍のひげ」です。

龍のひげは、スズラン科(ユリ科)の常緑多年草です。日本、中国など東アジアの森に広く分布しています。高さ二〇センチほどで、細い葉がたくさん出ます。葉が龍のひげに似ているのでこの名がつけました。「蛇のひげ」ともいいます。

夏には淡い紫色の小さな花が咲き、秋には小さな青い実をつけます。根茎でつながってじゅうたん状に広がります。寒さに強く、とても丈夫ですが、踏み圧に弱いので、中には入らないようお願いします。





# 平成二十一年も 残りわずかとなりました。

先日、家族でショッピングモールに買い物に行く機会がありました。あちこちお店を見て回り、フードコートに立ち寄ったときのことでした。

平日のためか人影はまばらでした。食事をしながら感じたことがあります。

年の頃、十五・六歳の少年、少女が十名ほどおりました。学生服、私服と服装はさまざまでしたが、喫煙室に普通に出入りし、使った食器はそのまま残されていました。

その光景を目の前にして、注意できない自分がおりました。

私も、家内と子どもを連れていましたので、何か危害を加え



臨南寺 住職  
大澤正道

られたらというふうを考えてしまいました。

後から考えれば、反省すべき行動であったように思います。

一昔前なら、年配者が何か一言注意している光景が目には浮かびます。その一言によって社会秩序が守られていたように思います。

来年は、一言注意できる大人を目指したいと思います。良いお年をお迎えください。

## 臨南寺行事予定 (一〜三月)

### 〇 弁財天祈祷会 (本堂)

一月十五日 午前十時〜

新しい年がよい年になりますよう、厄を払い福を招く法要を催します。温かい甘酒の振る舞いもございませう。誘い合わせてお参りください。

### 〇 春季彼岸会施食会 (本堂)

三月二十四日 午後時〜三時 (受付は二時半まで)

お彼岸はご先祖様に感謝する大切な期間です。家族そろってお墓に参り、ご先祖様をしのび、自分が今あることに感謝いたしましょう。

### 〇 彼岸会写経会

三月二十日・二十一日 午前十時〜午後四時

椋伽林の一階で行います。事務所にて随時受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円。



\*一月二日〜三日は、事務所を閉めさせていただきます。線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

\*二月の早朝坐禅会はお休みです。

毎月第二土曜日に行っております早朝坐禅会は、二月はお休みさせていただきます。



墓苑をご利用の皆様へ  
お願い

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- トイレにオムツを流さないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

# 石原裕次郎さんの 二十三回忌法要に参加して

横浜市にある總持寺

での修行を終え、このほどご縁をいただき、臨南寺に來させていただきました。出身は、最近、大阪府にならぶ元氣の

よい知事で有名な宮崎県です。

總持寺では、今年七月に石原裕次郎さんの二十三回忌法要を行いました。国立競技場を会場に、一般参列者十一万人が参られる超特大法要でした。彼の生前の姿を知らない若者から年配の方々まで、大勢がお参りされる光景を目のあたりにして、初めて私は彼の偉大さを知りました。と同時に、彼の生き方はこれほどのものを残したのだと実感しました。

お釈迦様の弟子であるのは、裕次郎さんも皆様のご先祖様も同じです。生き方はみな異なれど、ご先祖様が残してくださったものは必ずあります。



しげのぶ 久晃  
志賀 久晃

その生き方から生を受けた私たちが、ご先祖様に感謝をささげるのは当然のことでしょう。ご先祖様に感謝することは、親に感謝することと同じこと。親に感謝することは、いずれ自分も感謝される存在になるということなのです。

ご先祖様に感謝する。仏教徒としての表現方法は、仏壇に手を合わせることだと思えます。ご先祖様に日々向き合えば、おのずとご先祖様が残された生き方が、自分の生き方を導き出してくれるのではないのでしょうか？

これから、ご縁をいただいた皆様方と一緒に、手をあわせていきたいと思います。

# しめやかに マトリ合同法要

がつしよう園マトリの合同法要が、十一月八日一時から本堂で営まれました。

法要に先立ち、山形県の楊柳庵の住職、木村尚徳老師のお話がありました。「坐禅は気持ちが悪く落ち着くよい方法です。背筋を伸ばし、目を半眼に二メートル先を見る。意識を息に集中する。コツは吐くときを吸うときの二倍にすることです」「過去も未来も頭の中の出来事ではありません。昨日も明日も妄想、二番確かなのは、今の現実です。今をしつかり生き切ることが大事。今を生きているかどうか。今が一番若いのです。今この瞬間を楽しんでもらいたいです」老師の言葉が心にしみるようでした。そのあと、マトリで、読経が続くなか、ご参列の皆様それぞれのご霊牌に手を合わせていただきました。



## お気軽にご参加ください

### 早朝坐禅会

毎月第一土曜日  
午前六時半〜 本堂にて  
\*一月・七月・八月は、お休みさせていただきます。

### 写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時  
写経料・千円

### 『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜  
\*一月・八月は、お休みさせていただきます。  
\*いずれも事前のお申し込みが必要です。

## 編集後記

男子ゴルフの石川遼選手を見ていると本当に驚かされます。観客のこうなってほしいという夢を実現する攻めのプレーもそうですが、それ以上にコメントの言葉の表現力に驚かされます。世の中を変えていくのは一人のリーダーの存在なんだと思ひ知らされるこのごろ。記事のご感想をお寄せください。(M)

「ほ〜っと」28号

平成21年12月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com